

SSKU



お元気ですか？

2020年度

秋号

イリアンソ

です。



Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「生活寮での暮らし」

Page6 活動報告

Page7 職員リレー「仕事で大切にしていること」

連載

理事長の散歩道

②

「GoTo キャンペーンを使う」

社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

新型コロナウイルスは、徐々に少なくなっていく中10月を迎え今の話題は、携帯料金の値下げとGoToキャンペーンに東京都民も対象となり様々な格安旅行の話題がテレビを賑わせています。

実は、わたしの住所は埼玉県ということもあって、9月にGoTo キャンペーンを利用させてもらい、群馬県の老神温泉の旅館に泊り尾瀬の旅行に行ってみました。車利用で公共交通機関はしないことで3密にならないよう配慮しながら楽しみました。キャンペーンの手続きは奥さんがしましたので、旅行料金がどのくらい安くなったのかは正確にはわかりませんが、それでも半額近く安くなったのではないのでしょうか。料金の高いホテルほど割安感を感じられる仕組みになっており、小さなホテルは恩恵が少ないようです。まして民宿など個人経営の旅館な

ども対象ではないようで、大手の旅行会社とつながっていないとキャンペーンの対象にならないということでしょうか。

ウイズコロナとして、今回、宿泊したホテルも、しっかりとコロナ対策をしていました。マスクの使用はもちろん消毒液の設置や受付の時には、コロナ陽性者が出た時の連絡確認、温泉の入浴人数の制限、食事の席の並び方など3密を避ける取り組みがなされていました。泊り客も制限しているのか少なく、ゆったりと過ごすことができ、さすがサービス業としての接客で、見習う点が多いなあと思いました。温泉も貸し切り状態でした。次の日、曇り時々雨でしたが、午後から晴れ間の予報でしたので、予定通り尾瀬に行くことにしました。

のですが、3密になりやすい山小屋泊りは断念しました。そして、今回は鳩待峠から入山しました。うちの奥さんは山には登らない(わたしと一緒だとペーすが速く厳しい登山になる)ため尾瀬ヶ原の竜宮までは一緒でしたが、そのあとは別行動でした。9月の尾瀬は、まだ紅葉には早く上旬には花はほぼ終わりです。でも、湿原には池塘がありここに尾瀬の秋の風景を映し出し、とても美しい風景でした。わたしは、至仏山に向かいました。初めて登る山です。山の鼻からの登山開始となるのですが、時刻が10時半になっていたので、早いですが腹ごしらえのため山小屋で美味しいカレーライスを食べました。そして、山の鼻からの入山は一方通行です。山頂からの下りはダメで登りだけの登山道です。理由は、蛇紋岩といってとても滑る岩がゴロゴロしており、下山で

の転倒を防ぐためだそうです。天候は曇りで途中パラパラと雨も落ちてはきましたが、無事山頂につきました。この時間で登山者は私以外3グループの方がおられ、山頂には鳩待峠から登ったとみられる若者たちのグループがいました。山頂はあまり広くなく展望も悪かったのですが、雲の切れ目から見える景色は、秋色でよかったです。ただ、風が冷たく体も冷えてしまうので早々に下山し鳩待峠に無事到着しました。これからは、秋冬にかけて新型コロナウイルスの流行が危惧されています。みなさんも使えるキャンペーンを使って気持ち切り替え、乗り越えていきましょう。



▲池塘の水面に浮かぶ尾瀬の空

特集

生活寮での暮らし くわたしの日常を大切に

今回の特集は、法人のグループホームでの生活の様子を紹介します。



2004年に開所「うみ」「そら」
「一人でも」「親元を離れて」「ゆつたり」「のんびり」「自分らしく」生活できるようにという想いととも
にスタートしました。入居者の自
主性を大切にしながら、それぞれの
歴史や障害の状況に合わせた暮
らしの実現を目指して16年目を
むかえます。2011年には、「に
じ」「かぜ」も開所して、障害があ
る方の暮らしの場が地域で広がっ
ています。今回は、少しでも邪魔
させていただき、暮らしの様子を
教えていただきました。



イラスト：N・Hさん

▼イリアンソスのグループホーム

「生活寮」は、女性・男性ともに2棟ずつあります。女性寮の「うみ」「にじ」男性寮の「そら」「かぜ」の4棟に分かれ、各寮で7名の方が入居されています。

又、平日の日は通所の作業所を利用して、朝9時頃に通所先の送迎車が来るまで朝食を食べ、それぞれ準備をされています。

日中の活動が終わると、16時頃に皆さん順番に帰寮され、すぐに自室へ駆け込んで行かれる方、お茶を飲みながらお

やつを楽しまれる方や、日中の出来事を職員に教えてくれる方など、朝と同様にそれぞれ自分のペースで過ごされています。

週末や休日は、帰宅をされる方、そのまま寮を利用される方など様々で、自宅に帰られる方は前日から帰るのを楽しみにされ、寮に残る方は静かになった寮や職員を独り占め(?)。普段バタバタしているスタッフとも、ゆっくり話をしたりして、コミュニケーションを楽しんでいます。作業所が長期休みの時などはイベントも時々おこなっています。

「生活寮そら」での生活

▼Aさん 生活寮での楽しみ

基本的に平日利用のAさんは、土曜日の朝に帰宅されます。そして月曜日の朝は自宅から、のぞみの家に通所されるので、寮に戻られるのは月曜日の夕方です。まず、帰寮して一番の楽しみはお風呂です。帰寮すると、「お風呂に入りたくい」とお風呂場に直行します。頭や体を自らゴシゴシと洗ったり、シャワーを頭からかぶったり。楽しそうな笑い声は、リビングに居ても聞こえてきます。

寮の生活の中でAさんだけでなく、皆さんの楽しみは食事です。毎日、調理スタッフが来られ、温かい料理を目の前で作って頂けます。出来立ての料理をみんなで食べると美味しさも倍増です。時には、お母様方がご飯のおかずを用意して



頂けるので、ご飯が止まらず皆さんおかわりをされています。利用者さんの誕生日の夕食は希望のメニューをみんなまで食べています。(ケンタッキーやマクドナルドのビッグマックなど) Aさんの誕生日はまだなので、今から楽しみです。

▼自分時間

食事や入浴、就寝の合間にCDも聞きます。最近は新しいラジカセとCDが気に入りで、時間が空くと自室で音楽をかけています。テレビも好きなAさん、好きな番組は音楽番組です。特に歌謡曲が好きでテレビから歌が流れると体を揺らし足踏みをしなが聞いています。責任感の強いAさんは寮の様子や職員の動きがいつもと違うと自ら動いて身ぶり手ぶりで教えてくれます。

▼Bさん 至福のひと時

いつも柔らかい笑顔で周囲を和ませたり癒したりしてくれるBさんは「活動センターかなえ」に通所しています。2004年の開寮より「生活寮そら」を利用して最年長の方です。



Bさんは開寮当時、自転車に乗ることが大好きだったので、生活寮にも本人の自転車を用意していました。しかし、年令とともに少しずつ難しくなり、自転車に乗るといふ楽しみが途絶えてしまいました。

▼好きなことを

今では、コイン収集に楽しみが移っているBさん。毎週、寮利用始めの月曜日には近くの自動販売機までジュースを買いに行きます。コイン(小銭)が多く出るジュース(例えば、110円だと千円で購入する)を選びます。そして、自室でジュースを飲みながら、集まったコインを並べて数えるのが至福のひとつです。少し前はコインの収集熱が高まり過ぎてお財布がパンパン(ゲームに出てくるドル袋みたいな)になり過ぎて腰に負担が掛かってしまいました。本人と相談

したり、説得したり、納得したりしながら、色々とありながら、現在の財布は少し小さめサイズです。好きなことに没頭して、誰にも邪魔されずに楽しい時間を過ごされています。

「生活寮うみ」での生活

▼Cさん 休日の過ごし方

生活寮うみのCさんは「のぞみの家」に通所され、土・日・祝日も寮を利用されています。Cさんの休日の過ごし方を紹介します。

休日を寮で1日過ごされる時は、皆とテレビを観たり、ウッドデッキで日なたぼっこしながらシャボン玉をしたり、ホットケーキなどおやつを作って食べたりする事もあります。午前か午後にはお昼寝タイムを設けてリラククスされ、ベッドや、クッションを使い、音楽を流しながらのんびり横になって過ごしています。

▼いつもと違うひと時を

月に2〜3回、移動支援を利用して広い公園に行って散歩やショッピングモールで買い物、ミニコンサートなどで音楽鑑賞をします。喫茶店に入って、好きなコーヒーを飲んだりして、寮以外の生活を楽しんでいます。

今年の夏休みは、『夏休みイベント』として、うみ・そら合同で、ランチバーベ

キューをおこないました。改装して快適になったウッドデッキで、いつもと違う雰囲気を感じられました。お肉が焼けるにおいを感じてか？表情が和らいで微笑んでいたCさん。外での食事という事もあつてか、皆と楽しく普段よりたくさん食べました。

事業所単位としては、28名の方が暮らす生活寮では、バラエティに富んだそれぞれの暮らしがあります。

利用者の皆さんが自分らしく楽しく暮らせる生活寮を目指すためにも、余暇の充実は大切だと考えています。今後も利用者さんそれぞれを中心に、家族・余暇・仕事・地域とのつながりを大切に寮での生活を築いていきたいと考えています。



法人全体家族会

7月14日(火)に東久留米市役所プラザにて、家族会が行われました。新型コロナウイルスが世間を騒がしているなかではありましたが、対策を講じながら開催しました。事業計画の説明と昨年度の事業報告をおこないました。画像を用いて各施設の活動の様子も報告しました。

ご家族からも発言を頂きました。その中で感染症が猛威を振るう中にあっても開所してくれたことはとても有難く、感謝しているとの声がありました。これは、ご家族・関係する事業所・職員、パートスタッフ、並びに地域の関係者との連携と協力があったからこそです。

改めて、家族・地域や障害福祉の役割の大きさを実感することができました。

(上) 写真を見ながら活動報告

(下) ご家族からも発言をいただきました。



絵が「Tシャツ」になりました!!

のぞみの家のおひさま班では、絵を描く活動があります。10名の利用者さんの描き方は様々です。皆さん色々なコンクールに入賞されています。そのことが、次への創作活動への力ともなっています。

宮澤祥子さんは、『ゆびえのぐ』を両手にたくさんつけてキャンパスを抱えるように描きます。

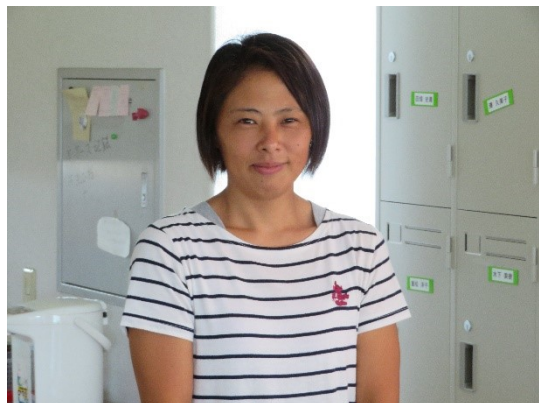
今回のテーマは『桜のじゅうたん』の絵です。隣の公園の桜を見ながらイメージを膨らませて描きます。時間をかけて色を重ねて描くため、絶妙に色が混ざり、豊かな色彩に仕上がっています。

宮澤さんの絵がアパレルブランドの方の目に留まり、Tシャツとして商品化されることになりました。いつも笑顔で、周囲の賑やかな雰囲気が大好きな宮澤さん。これからも色々なことを感じながら作品を作り上げていくことでしょう。ネット販売でも購入が可能ですので、詳しくは法人のホームページをご覧ください。

(上) 『桜のじゅうたん』全3色

(下) ゆびえのぐをたくさんつけて





のぞみの家 (生活介護)

牧川瑠衣(2年目)

私は、一人ひとりが、一人の人間として認められ、それぞれの個性を表現し、力や良さを発揮できる、また、好きな活動や望む暮らしを送る事が出来る。そんなごくごく当たり前のことを、自分の生まれ育った地域や生活の中で実現してほしいと思っています。
何より何においてもその人自身が選べ・決める事を一番大切にしていきたいと考えています。そのプロセスはハッキリとした形として見えてこないか

職員のひそひそニレール

vol 6



生活寮 (共同生活援助)

廣智章(15年目)

利用者さんはいろいろな表現で、私たちスタッフに気持ちを伝えます。笑った時には、楽しい、嬉しい、愛想笑いだったり、表情が強張ったり、怒ったり、時には無表情でも何か訴えかけているようにも見えるときがあります。体調の異変を訴えたいこともあることと思います。なかなか表情だけでは分かち合えないこともあります。普段から利用者さんの表情、身体の異変に気を付けながら接することを心掛けていま

す。一番大切にしていることは、利用者さんが自分らしく自然体で、そして気持ちが素直に出せるように分かち合っていきたいと思っています。そして私が前に出すぎないように黒子のような存在でいたいと思っています。
利用者さんがいつまでも幸せに人生を送れるよう仕事に励んでいます。

前回、職員からのリレーです。
『仕事で大切にしていること』今回は、日中通所の場と生活の場の職員です。

もしれません。しかし、私はその人の内に秘めたもの、言葉には表れない言葉、本当の心の寄り添い、共に感じ・考える中で、その人を支える事が出来る支援者でありたいと思います。



ご寄付をいただきました(9月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 八幡茂子様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-452-6405

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町3-8-23

042-473-9667

～編集委員のつぶやき～

朝、空を見上げるとどこまでも続く青い空に、身体とところが自然と一体になる感じがあります。季節の中で秋空が一番気持ち良く好きです。これから秋は、美味しい食物が旬です。たくさん秋を満喫したいと思います。

高橋友紀(活動センターかなえ; サービス管理責任者)

《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-1

ヴェルドゥーラ祖師谷102号室

Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里2-7-18

Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

《編集委員》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵・中西亮太
花形優・高橋友紀・松森大輔・廣智章・吉坂慧佑

※ホームページからもご覧いただけます。

イリアンソス



定価100円

表紙の写真 「このみ」(放課後等デイサービス)

子どもたちの笑顔がたくさん。